
報告者名	川島 秀一	被調査者生年	1934年(男)
調査者名	川島 秀一	被調査者属性	漁師(F-2話者)
補助調査者	なし		

震災後の漁業

荒浜の漁師の船は常時、仙台新港のそばに係留されていたが、震災時には23艘のうち2~3艘が沖へと逃げた。陸に戻るのに2日かかった船もあった。15トン、17~18トンの船は震災後の火災で燃えてしまっている。話者の船である「だいよし丸」は、津波から12日目に、菖蒲田浜から200メートル沖で奇跡的に話者の甥によって発見された。青森の船大工に来ていただき、アオヒバを用いて補修をした後、例年どおり9月1日からアカガイ漁に出ている。

ただし、それまではすぐに漁に出られず、船をドックに入れ、漁師たちは瓦礫すくいのアルバイトをしていた。1日の賃金が12,000円、船を出した代金は22,000円であった。

アカガイ漁は、8月20日にアカガイの放射能汚染の検査を経て、9月1日から操業開始したが、当初は1キロ1万円くらいで50キロくらい水揚げしている。2011年にはアカガイの他にアオコ(ブリの若魚)・サケ・イナダなどが捕れたが、2012年は、アカガイ以外は不漁。代わりにワタリガニがマンガンに入っていて大漁であった。震災後にアカガイは、以前より沖の方に生息をしている。この漁が続けられている理由は、海底に瓦礫が溜ってはいるが、津波がヘドロを流してしまい、浄化されているためだという。ツブカゴで捕るツブガイ漁も、以前は1キロ300円だったのが、今では1,700円の高値で取引されている。

年末にホッキガイを捕るオマカナイ漁は、海底に沈んでいる瓦礫が怖いので、曳いていない。話者は、それでもいくらか捕ってきて、正月用として親戚や知人の約30軒分を渡してある。ただし、仮設住宅で住んでいる知人は、以前のように魚をもらいにくるようなことはなくなったという。仮設住宅の台所が狭いためである。

話者は、被災地の荒浜に1人で倉庫を建てて、日中はここで漁具の手入れなどをして、夕方には若林区荒井の仮設住宅に戻っている。他にも10名くらいの漁師が道具小屋を建て、生業のために利用している。彼らの小屋には皆、共通して黄色い旗を立て、集落移転に反対している。話者によると、海を相手にしている仕事であるために、毎日の天気予報などは、海のそばでなければわからないという。たとえば、海鳴りを聞くことによって風の方向がわかり、金華山に雲がかかると見れば雨が降ることがわかる。これらは浜から遠く離れている仮設住宅からでは見聞きできないという。話者は、これらの伝承を若いころに建網の仕事の中で、当時のお年寄りから教えられたという。

荒浜の神社

荒浜には湊(ハツテラ[八大龍神]様)神社、神明社などがあった。

ミナト神社の祭りには、面コ売りやパチンコ台などの店が立った。

神明社の祭りは年に2回で、夏の祭りにはキュウリを上げた。キュウリは5月に畑に植えたものだが、先に人間が食べたならば、泳ぎに行ったときに河童にさらわれると言われた。7~8月に水遊びをしたが、南沼に河童がいると言われた。北沼・南沼・大沼は排水が悪いところであった(写真1)。

ハツテラサマは3月が祭礼であるが、元旦にもお神酒1升とお賽銭を上げてきた。

話者の奥さんは、オフネ(漁船)が出る日には午前2時半に起きてから食事の用意をして、祈りを捧げているが、

祈りの言葉は、「八大龍神、お船霊、金毘羅さんのオミタマ様、金華山のオミタマ様、大きな大きな神様に守られて、今日もおフネがでますので、お守りください」と口に出すそうである。これは震災後も仮設住宅に祀られたお宮に向かって唱えている（写真2）。

ほかに、お庚申様の石碑があり、戦争中、入隊するときは、そこまで村人が送っていった。陸軍に入隊するときは日の丸を手に持ち、海軍のときは軍旗を手に持って送り出した（写真2）。

荒浜の年中行事

1月14日 チャセゴ・鳥追い

夜遅く、子どもたちが、昨年に新築した家や、嫁をもらった家を「アキの方からチャセゴに来ました」と語ってあるいた。厄年に当たる大人も、面をかぶり、頬かぶりをして、軒並み踊りあるいた。

また、この夜の12時が過ぎたときに、「鳥追い」をした。正月のオトシナに挟んだ白い紙を取って、竹に洗濯物を干すように吊るしておき、家の前に立てかけて置く。時間が来ると、それを持って、家のコンコン様（稻荷）やオミョウジン様、家の角などに行き、「ホーホー、ヤーヘエ、ヤーヘエ」と叫んで、他へ追い払う仕草をした。この夜は「マナクの一つのチョウレンボウ」という「毒鳥」が飛んでくるので、それを追い払うためだという。

7月7日 虫送り

竹にズンダ餅やアンコ餅を挿して、川や海に立ててくる。この日の朝は7回餅を食べて7回泳いだ。

8月15日 豆ゲツツァン

月を見る行事。ススキを上げ、オクズカケを食べた。

10月15日 芋ゲツツァン

農家から里芋をもらった。



写真1 神明社の跡地

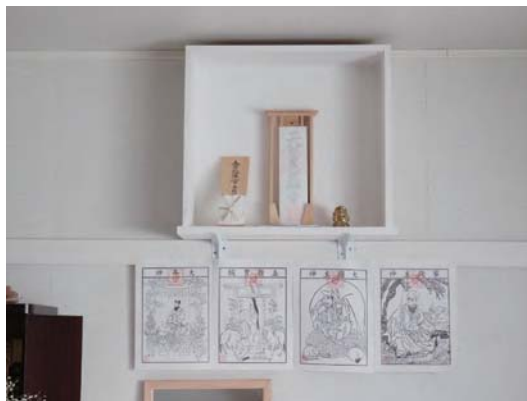


写真2 仮設住宅の神棚